

9

一生懸命がんばりました

## 12 第5回沼田認定こども園運動会

第5回沼田認定こども園運動会がこども園のグラウンドにて9月12日（土）に開催されました。

今回の運動会は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、参観可能な保護者人数の制限、園児のみで競技できるプログラム編成、参観者分散のための2部制の導入などの工夫を行い開催されました。

園児たちは保護者を見つけると手を振り、精一杯かけっこや綱引きなどをがんばっていました。



9

もしものときのために

## 12 救命講習会

救急医療週間中の9月12日（土）、救命講習会がふれあいすこやかホールで行われました。一般の方を対象にした講習会は初めての試みで、受講者は真剣な眼差しで講習を受けていました。

心肺蘇生の実演やAEDを操作する等、講習会に参加した50代の女性は「心肺蘇生は体力を使う。すごく大変なことだと思った。貴重な体験でした」と感想を話されていました。



## 9 / 14 **おいしいそうなメロンがいっぱい** **沼田小学校4年生メロン収穫体験**

沼田小学校の4年生が、6月に定植したメロンの収穫体験を行いました。

この収穫体験は町内の農家女性により結成された「農天気の家（藤村富士子代表）」が主催し行われているもので、参加した児童たちにメロンの収穫方法などを丁寧に教えていました。

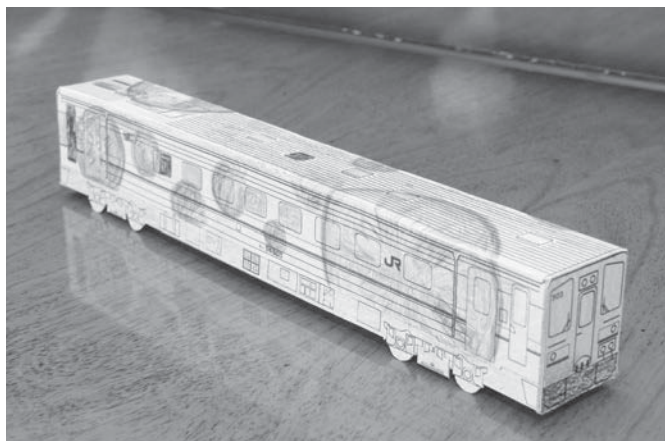
収穫を終えた児童たちは「メロンは1個いくらくらいするの?」「どこに出荷するの?」など素朴な疑問を会のメンバーに質問していました。



## 9 / 15 **キハ54デザインコンテスト** **沼田中学2年生堀田美琴さんが最優秀賞**

沼田町観光協会（吉住淳男会長）が主催のJR留萌本線応援企画で募集していた、留萌本線走る列車「キハ54」のデザインコンテストで沼田中学校2年生の堀田美琴さん（沼田3）の作品が最優秀賞に選ばれました。

作品はトマトをあしらったデザインで、堀田さんは「輪切りトマトの色づかいが難しかった。トマトジュースは大好きです」と話し、横山町長は「素晴らしい作品で、こんな列車をラッピングして留萌本線を走らせた」とお祝いの言葉を述べました。



9/25

子育て援助をしたい方に向けた

## 沼田町ファミリーサポートセンター 援助会員養成講座開講式

沼田町ファミリーサポートセンター援助会員養成講座の開講式が9月25日（金）行われました。

このサポートセンターは、子育ての援助を行いたい方とその援助を受けたい方からなる会員組織で、援助を行いたい会員は講習受講が必須となっていることから10月末までに講習を計6回行う予定です。

この日行われた開講式で横山町長は「親が近くにいなく子育てに不安を感じている方もいる。ぜひ相談相手になっていただき、地域全体で子育てを応援する体制をつくりたい」と挨拶しました。



9/30

今後も農業を続けます

## 地域おこし協力隊小山隊員が就農

札幌市から転入して地域おこし協力隊農業支援員として3年間沼田町で活動し、研修先であった有限会社H J Y さくら（山岡禎弘代表取締役）に就職する小山健次郎さんの就農支援金交付式が9月30日（水）行われました。

交付式で横山町長は「これからも自身の目標、夢のため明日からも更に農業を勉強していただいて、この沼田町で活躍してください」と激励の言葉を述べました。

また3年間研修を受け入れていただき、これから小山さんを社員として雇用する山岡代表取締役に感謝状を贈りました。



10/1

都市との交流事業

## 札幌ベルエポック製菓調理専門学校来町

沼田町はトマト加工品や地元農産物を使用した新商品、メニュー開発の提案協力と農産物PRの場として札幌ベルエポック製菓調理専門学校（札幌市）と交流事業を実施しており、10月1日（木）同校のカフェ科に在籍する学生9名が来町しました。学生たちは加工用トマトの収穫体験など様々な現地体験を通じて沼田町の理解を深め、加工用トマトと生食用トマトの食べ比べ体験では「加工用トマトの方が酸味を感じる」「思ったより加工用トマトはジューシーな食感だった」など、初めて生の状態で加工用トマトを試食した学生たちが感想を話し合っていました。



## 10/4 健康な体づくり 明日萌・ほたるの里ウォーキング

毎年恒例の「明日萌・ほたるの里ウォーキング」が10月4日（日）行われました。コロナ禍のなか参加人数は例年より少なめでしたが、約100名の参加者が体力に合わせ8.5km、4.5km、2.5kmの3つのコースで爽やかな汗を流しました。

開会式で横山町長は「世の中はコロナの感染拡大でたいへんな状況ですが、このウォーキングをきっかけにコロナに負けない体づくりをしてほしい」と挨拶しました。



## 10/4 秋を感じて 紅葉を見る会

ほろしん温泉ほたる館で「紅葉を見る会」が10月4日（日）開催されました。

会場ではジンギスカンやきのこ汁を味わうことができ、多くの屋台が並びました。また新米30kgなどが当たる大抽選会が開催され、会場にいた約200名の参加者は秋の味覚とイベントを楽しみました。



## 10/5 子育てを学ぶ 沼田町孫育て講座

共働きの子育て世代が増え、祖父母世代に子育ての援助を求めるニーズが高まっていることから10月5日（月）に「乳幼児の心の発達とかかわり」というテーマで孫育て講座が開催されました。

講師に名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科教授の糸田尚史氏を迎えた本講座は地域子育て支援事業「沼田町ファミリーサポートセンター事業」の援助会員の養成講座も兼ねて開催され、参加者は主に児童心理学的アプローチから大人としてどのように子どもに接するのが良いかについて学びました。



体験を通して学ぶ

## 沼田中学校 2年生総合学習

10/6

### 特産品販売体験



沼田中学校2年生は10月6日(火)と7日(水)の二日間、総合学習の時間に特産品販売体験とJR留萌本線乗車体験を行いました。

初日は深川市にある道の駅で沼田町の特産品を販売しました。

生徒たちは夜高あんどん祭りの半纏を着て、拍子木を叩き夜高節を歌うなど元気に販売し、研修係リーダーの藤村秀美さんは「特産品の魅力だけではなく、沼田の魅力も伝えられたと思う。お客さんの『ありがとう』という声がうれしかった」と笑顔で話していました。

販売体験後、生徒たちは深川市に一泊し、翌日JR留萌本線乗車体験としてJR深川駅からそれぞれで切符を購入し、沼田町へ戻りました。

10/7

### JR留萌本線乗車体験



## 10/8 ゆっくり走ろう！ 交通安全街頭啓発

10月8日(木)沼田ライオンズクラブ(久保元宏会長)と沼田自動車学校(宮脇浩三校長)が合同で交通安全街頭啓発活動を沼田小学校前で行い、26名の参加者が道路際に交通安全の黄色い旗を振り交通安全を呼びかけました。



貴重な体験でした

## 沼田小学校5年生が沼田の農業を体験

9/23

### 稲刈り・はさがけ体験



沼田小学校5年生14名の児童が、9月23日（水）に稲刈り・はさがけ体験を行いました。

今年は新型コロナウイルス感染症の影響により5月に行われる予定だった田植え体験は中止となりましたが、児童たちは「雨の中の作業で大変だったけれど、稲刈りができて楽しかった」と話していました。

10月9日（金）には、稲の脱穀・粃摺り体験を行い、児童たちは作業の注意事項や説明を受けたあと、慣れない手つきながらも真剣に取り組みました。

10/9

### 脱穀・粃摺り体験



## 自衛官募集相談員に委嘱状交付

自衛官募集相談員の委嘱状交付式が9月29日（火）町長室で行われました。

募集相談員として徳盛透さん（仲町東）、大沼恒雄さん（緑ヶ丘）、荒木勉さん（北竜3）が委嘱され、当日出席された徳盛さんに自衛隊旭川地方協力本部の二瓶恵司本部長から委嘱状が交付されました。



10/9

沼田町を学ぶ

## 立命館慶祥高等学校が来町

町と地方創生人材育成制度に関する協定を結んでいる立命館慶祥高等学校（江別市）の生徒4名が10月9日（金）役場を訪れ、沼田町の観光などについて学んでいきました。

町の担当者が沼田町の観光事業について講義し、生徒からは「今年はコロナの影響で少ないと思うが例年だとどのくらいの観光客が来るのか」「冬の観光はどのように考えているのか」など熱心に質問していました。



10/12

もしもの災害時のために

## 沼田中学校で1日防災学校

防災について学習する「1日防災学校」が10月12日（月）沼田中学校で行われました。

町の防災担当者が各戸に配られている「防災のしおり」や「ハザードマップ」を使い避難所の役割や注意事項、浸水した時の対応などを説明。その後「Doはぐ」という避難所運営ゲームをグループごとに分かれて行い、災害時の避難所の運営について意見を出し合いました。



## バレーボール北海道選抜

沼田中学校3年生の川嶋<sup>るき</sup>琉姫さんが、北海道バレーボール協会強化委員会で選考した将来有望な24名の選抜選手に選ばれ、中止となったJOCカップ（全国大会）の代わりとして開催されるJOCカップ北海道大会に出場することが決定しました。

川嶋さんの持ち味は176センチの高身長を活かしたブロックと鋭い角度で打ちこむスパイクで、沼田中学校バレー部の佐藤匡之監督は「バレーボールのセンスは今まで指導した生徒の中でも群を抜いている」と絶賛していました。

選抜に選ばれたことを聞いた川嶋さんは「連絡が来てびっくりした。試合では自分の持ち味を活かしてチームに貢献したい」と大会への意気込みを話していました。

